

金属団地ニュース





6月度月例会開催

6月17日(月)の正午より、研修センター 3階の集会室にて6月度月例会が、岐阜県と岐阜県中小企業団体中央会と金属団地の共催により開催されました。岐阜県中央会の高井課長の司会により、今井理事長の挨拶、岐阜県商工労働部 労働雇用課長 大城戸克之氏のご挨拶、講師の大塚社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士 大塚晋平氏の紹介と進められ、講演に入りました。今回の月例会はテーマを『働き方改革を進めるために』とし、4月より施行された働き方改革のうち、内容を長時間労働の是正関連に絞って説明されました。どうすれば法の範囲内で仕事をこなしていけるか、今回の講演の至る所にそのヒントがあったように感じました。

また月例会開催前には、(株)石田製作所の石田智美氏より、先日行われた石田甚一様のご葬儀のお礼と生前お世話になったことへの感謝の挨拶がありました。



大城戸課長の挨拶



講師の大塚氏



石田氏のお礼の挨拶



(株)石田製作所社長 石田甚一様 ご逝去

(株)石田製作所社長 石田甚一様が去る5月22日、満90歳をもって永眠されました。石田甚一様のご逝去に謹んで哀悼の意を表します。

なお、葬儀式は5月24日に岐阜葬祭にて営まれました。

健康診断と献血が行われました

5月の下旬から6月の上旬にかけて、研修センター 3階と駐車場にて、団地内企業経営者及び従業員を対象とした一般健康診断が行われました。また、6月5日の午後には、同駐車場にて献血も行われ、21名の方が献血をされました。ご協力をいただいた方々、ありがとうございました。



新代表者就任

令和元年5月22日付けで、金属団地の組合員 (株)三機の新社長に、木島好規様に代わり木島正人様が就任されましたのでご報告いたします。

安全週間準備パトロールの実施

6月20日(木)に安全週間準備パトロールが行われました。今回のパトロールで指摘を受けた箇所を7月の本週間までに改善します。



新職員自己紹介



この度は、岐阜県金属工業団地協同組合でお世話になることになりました窪田元太郎と申します。最近ハマっていることは、ジムで身体を鍛えることです。ストレス発散や気分転換にもオススメです。趣味は旅行です。今年は高山へ何度か遊びに行きました。オススメの観光地があれば教えてください。

電気技術者として入社しました。以前から電気設備点検業務に携わって参りましたので電気でお困りの際には気軽にお声掛けください。

皆様に電気を安全・安心してご利用して頂けるように精一杯、努力したいと思います。



6月17日付で配属となりました小島聖夏と申します。前職では税理士法人で入力業務や総務事務に携わっておりました。

今年の3月に愛知県春日井市から一宮市へ転居したばかりですので、近辺でおすすめのお店などがありましたらぜひ教えて下さい。

一日でも早く組合員の皆様のお力になれるよう精一杯努力していきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

令和元年度組合員親睦旅行 行先決定!!

毎年秋の恒例となっております、組合員親睦旅行ですが、開催日と行先が決まりました。

開催日：10月4日(金)～5日(土)

旅行先：大阪

観光地：あべのハルカス展望台、なんばグランド花月等

ゴルフ：阪奈カントリークラブ(予定)

備考：宿泊は一人部屋となります

2日目は、観光組とゴルフ組とに分かれます

今回は天下の台所・大阪への旅行となります。

ぜひ参加していただけますよう、お願いいたします。





渋沢栄一

K・T

この5月1日から新元号が令和となった。その1ヶ月前頃、日銀券が5年後に新紙幣に切り替わる事が発表された。その新1万円札の肖像が福沢諭吉から渋沢栄一へ変わる事も報じられた。日本資本主義の父と称される渋沢栄一の事をもっと知りたくなり、氏の伝記や著書の「論語と算盤」を読み、その偉大さと懐の深さに感銘を覚えた。

ちなみに氏は幕末の1840年に現在の埼玉県深谷市の豪農の家に生まれ、満州事変の始まった1931年、東京の飛鳥山で生涯を終えた。

- ①幼少の頃より身に着けた論語の教えを単なる教養としてではなく実践の指針として常に活用した。幕末の為政者の君子足らざる行動に激しい嫌悪感を抱き倒幕活動に走る。それが挫折し、紆余曲折を経てフランスへ万博使節の随員として派遣された時、当地での体験として官・民の隔たりのなさ、即ち官と民は常に対等であり相互に尊敬の念を抱いている。これこそ論語の理想の表れであるとの認識を強くした。
- ②帰国後、官の立場で大蔵省の幹部として金融制度の確立や廃藩置県に伴う諸課題の解決に当たったが、財政資金の不足に常に見舞われる事態に、本当に国力を付ける為には民間の力が必要だと認識し、以降は民の立場に立ち、その力を育成する事に生涯をささげる決意をする。
- ③第一国立銀行の設立を皮切りに、日本の産業革命の担い手となるあらゆる分野の企業500社以上の設立にかかわった。現在も基幹産業として存続し続ける会社は数多く、名を挙げれば東京海上、日本郵船、日本製紙、キリンビール、東京電力、帝国ホテル等々限りがない。市の論語実践の証は、それらの企業を私物化し財閥を形成する事はなく、軌道に乗った時点で他に主権を移す。これが国力の増加に貢献するとの信念に燃えて、民力の増加の観点から教育にも力を注ぎ、現在の一橋大学、国学院大学、日本女子大学等数多くの大学設立に貢献する。
- ④77歳の喜寿を境に実業からは引退したが、さらに精力的に悪化した対米関係の修復を目指し、相互の意思疎通を図る諸委員会活動を展開する。貧者救済のため、又労使間の対立緩和のため注力する。実業とは距離を置いた社会活動に重点を移す。
- ⑤俗人の私をほっとさせるのは、氏が明治の元勳と同じで幾人もの愛人を囲い、それを正当化するため「孔子さまは固いばかりでなく遊びも結構されたんだよ」と言いふらしたそう。こんなエピソードがある。77歳の時、本郷の愛人宅で氏そっくりな赤ん坊を抱いているのを近所の東大生に見つかり、大慌てをしたという噂が流れた。というくらい氏は精力あふれる艶福家だったようだ。

○肖像画にみる氏は、ふっくらとこやかだ。巨万の富を手にしてもおかしくない業績を上げながら、私物化することなく国の繁栄に振り向けた私心のない姿は、新しく始まった令和(美しく和らぎのある)時代にふさわしい1万円札の顔としてながく親しまれて行く事だろう。

新規高卒の“求人動向”と高校生たちの“進路動向”は？

先月号では、高校生たちがどんな企業を選んで就職をしているのかについて、地域、企業規模、給与等の観点で実態を述べさせて頂きました。今回は、新規高卒の“求人動向”と生徒たちの“進路動向”について述べさせて頂きます。新規高卒を獲得するためには、①求人ターゲットの高校の現状を把握すること（マーケティング）と、②自社の目的を達成するために相手に応じた対策を立てて実行すること（マネジメント）が重要です。マーケティングの一事例として、以下のことを参考にして頂ければと思います。

■新規高卒の求人動向

平成30年度の県内工業系11高校の求人状況については、4月号で「平成30年度の新規高卒就職戦線の総括」として紹介をさせて頂きましたように、岐阜工高が9.77倍、関商工高が14.03倍、可児工高が14.35倍などと、各高校とも過去最高の求人倍率となりました。各務原市内（県内）の求人企業・求人数の増加はもちろんですが、愛知県からの求人企業数の増加及び1企業あたりの求人数の増加（倍増）、関東地区からの求人企業、特に建設業関連（土木系）企業からの求人増などが要因です。



図1 各務原市近隣4工業系高校の求人動向

各務原市近隣の4工業高校の過去6年間の求人動向は図1のようです。各校とも平成25年度には4、5倍であった求人倍率が平成30年度はその2～3倍になっています。この間、各校の学科及び定員に大きな変化はありませんので、純粋に求人数の急増状況となっています。「以前は工業高校から採用できたのに、最近は全く応募がない。」との声を市内企業の皆様からよくお聞きをしますが、その原因は、“求人倍率の異常な上昇”にあります。昨年度は、愛知県のトヨタグループの大企業でも“二次募集”を行わざるを得なかった企業が複数社ありました。

7月1日から令和初の新規高卒求人票の受付が各校で始まりましたが、今年度も昨年度以上の求人倍率になることが予想されます。各企業の皆様の各校への積極的な企業情報の提供をお願いします。

■生徒の進路動向

図2は、平成22年度から平成30年度まで9年間の県内工業系11高校の進路動向（統合版）です。就職率は平成22年度の67.6%から平成28年度の75.7%（過去最高値）まで上昇傾向でしたが、平成29年度は4%の減少となっています。平成30年度は、過去最高の求人倍率の影響か再び上昇し、73.6%と過去2番目の高さとなっています。これは、求人倍率の急上昇により、“就職の先取り”をする生徒が増えたことによるものと考えています。 ※“高卒”でなら入社が可能だが、“大卒”での入社は競争が非常に厳しい企業を先取り

県内就職率は、平成25年度の73.2%をピークに減少傾向が続いており、平成30年度は63.8%と過去最低となっています。これは、“愛知県の求人企業数の増加、特に、トヨタグループ企業の求人数

の倍増”などが要因ではないかと分析しています。就職率が増加している中での県内就職率の低下は大きな課題であると考えます。このことが、岐阜県の人口減少に少なからず影響しているのではと推察しています。

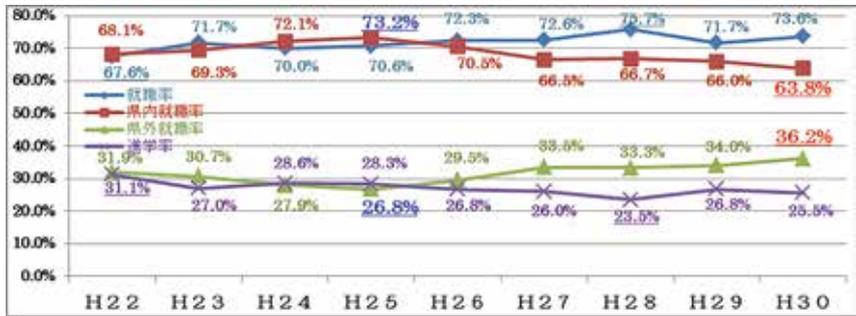


図2 県内工業系11高校の進路動向(統合版)

岐阜県の人口は、昨年9月に200万人を切り、平成31年4月1日現在の人口は1,991,623人となっています。前月に比べ4,652人減少しています。3月1か月間の出生数は1,040人、死亡数は1,976人ですので差し引き936人が自然減少となります。また、転出入は3,716人の転出超過となっています。転出超過の主因は“職業上”となっており、新規学卒等の愛知県企業への就職が転出超過による人口減少に大きく影響していると思います。

各工業系高校の進路指導主事からの情報をまとめると、「就職者・進学者は年度により若干の変化はあるが就職率は7割、内県内就職率が7割であるが、県外就職率は微増ながら増加傾向にある。」となっています。県内の普通科高校や商業、農業、家庭、福祉等の高校、及び、特別支援学校の高等部を訪問し、各校の求人状況及び進路状況等についてお聞きしてきましたが、各校ともに昨年度は、過去最高の求人状況であったとのこと。また、各校ともに“県内企業への就職者増加”のための指導に力を入れてみえました。

企業の皆様からは、「工業高校の生徒は進学が多くて、就職者が集まらない。」とか、「みんな愛知県の大企業に就職をしてしまい、地元の中小企業には目を向けてはくれない。」「以前は採用できていたのに、最近全く応募がない。」などとよくお聞きをしますが、就職先を決めるときに“企業名”や“企業規模(資本金・従業員数)”を重視する生徒は少数です。(岐阜工高での進路に関する意識調査結果より) 多くの生徒は“仕事内容”や“やりがい”、“所在地”(自宅から通勤が可能か?)を重視する傾向にあります。そして、例年、生徒の7割が“自宅から自家用車で1時間以内で通勤できる企業”に就職をしています。ただし、木曽川南岸地区の一宮市、犬山市、小牧市、春日井市の企業へも1時間以内で通勤できるので、これらの愛知県の企業との競争にもなります。特に、可児・加茂地区や東濃地区の工業系高校では愛知県への就職者が多い状況になっています。愛知県の企業に勝つためのマネジメントが重要です。

また、愛知県への就職者は“大企業志向が強い傾向”にありますが、先月号でも述べたように、工業系高校では例年、“従業員が299人以下の中小企業に半数の生徒が就職”をしています。中小企業への応募の有無は、生徒及びその保護者、そして、高校の教員の“認知度の高さ”(企業名、所在地、仕事内容を知っているか。)にかかっています。

どうしたら自社の認知度を高めることができるのか?このことについては、次号で企業人材全力応援室の企業支援の取り組みと合わせて述べさせて頂く予定です。

(文責:各務原市産業活力部商工振興課企業人材全力応援室長 長屋千秋)



高出力ファイバーレーザーマシンを導入

株式会社 杉山

株式会社杉山（代表取締役：大野文雄、以下「当社」）は、本年3月31日にアマダ製のファイバーレーザー加工機を導入しました。レーザー加工機はいままで3台の買い増しや買い替えを経て通算4台目になりますが、今回は近年話題のファイバーレーザーを選択しました。ファイバーレーザーは従来のCO2レーザーと比較すると、

- ① レーザ光を光学式ミラーで反射させる機構がないため、従来必須だったミラー清掃や交換が必要ない
- ② 受電容量が大幅に少なくなるので省エネ効果が高い
- ③ 波長が非常に細かいので反射に強く、難加工材でも加工しやすい

などの特長があります。発表当初はどちらかというとも薄板の切断が得意と言われており、中厚板の切断が多い当社には向いていないという印象でしたが、昨年レーザー発振器に6kW以上の高出力モデルが発表されたため、導入の話が進んでいきました。

高い生産性を確保するために材料供給用のストッカー（材料10枚を自動で出し入れするオプション設備）も設置したかったのですが、面積が大きくなるので設置場所に悩み、最終的には3台目のレーザー加工機を含めて4台の機械を撤去することで、導入を決定しました。すべて作業者が材料を手でセットして切断や穴あけをするような機械でしたから、それを1台に集約してさらにセミオート化できたのは非常に大きな変化でした。また、これを機に工場内のレイアウトも大きく見直し、無駄が多かった動線をシンプルな流れに改善することにも成功しました。

加工性能については、すべての板厚においてレンズ交換が不要であることや、ノズルオートチェンジャ機能などにより、段取り時間が大幅に削減されていますので、加工速度自体が4倍以上速くなっている点も含めると生産性は格段に向上しているのを実感しています。加工速度がここまで速くなったのは、切断時に使用するアシストガスを従来の酸素から窒素に変えたことによります（亜鉛メッキ鋼板加工時）。しかも、コンプレッサーで発生した空気から窒素を抽出して使用するのでガスボンベを購入する必要がなくなり、大幅なコスト削減にも成功しました。高出力発振器によって22ミリなどの厚板も加工可能なので、外注費の削減や、切削加工からレーザー加工へのVA提案などにも効果がありそうです。

最新機につきまだ岐阜愛知地区では導入が少ないので、先日はメーカーからの依頼で導入事例セミナーと見学会を行わせていただきました。当日は工場に入りきらないほどのお客さんが詰め掛けられ、この機械の注目度の高さに驚きました。大変反響も大きかったようで、見学会の後すぐに2件ほど引き合いがあったそうです。

本機はENSIS（ラテン語で「剣」）という名を冠しており、その名のとおり切断に関してはすべて任せておけるエポックメイキングな機種だと思います。これからフル稼働でガンガン働いてくれることを期待しています。



青年部コーナー

大野雅尚氏(当団地青年部会長)が表彰されました

令和元年6月14日、都ホテル岐阜長良川で行われました第64回岐阜県中小企業団体中央会(以下県中央会)通常総会において、当団地青年部会長 大野雅尚氏が県中央会会長表彰を受賞されました。現在大野氏は岐阜県中小企業青年中央会(以下県青年中央会)の副会長として活躍されており、県青年中央会の発展に寄与した功績が認められての受賞となりました。おめでとうございます。これからも、県青年中央会及び当団地青年部の発展にご尽力されますことを期待します。



岐阜県中小企業青年中央会 第45回通常総会に参加

6月12日(水)、岐阜市のホテルパークにて、岐阜県中小企業団体青年中央会 第45回通常総会が開催され、青年部から2名参加しました。

決算総会及び予算総会とも上程された議案は滞りなく承認可決され、その後の懇親会においては、業界内・他業界の会員と交流を深め、会員同士の団結力を高めました。



青年部企業視察 ピーピーエル株式会社

6月18日に青年部研修事業を実施し、今回は各務原市須衛町のピーピーエル株式会社様にお伺いして企業視察をさせていただきました。ピーピーエル株式会社様は1975年創業にて40数年以上にわたって各種設備の電装品の設計製作、電装資材の販売等を手掛けてみえる会社です。昔から金属団地企業との関わりが深く、取引をしてみえる会社も数社あります。電装品の設計技術を生かした自社製品の開発・販売など大変意欲的な経営をされている企業でもあります。青年部にとっては各務原市内の会社同士で、ピーピーエル古田社長とは同年代ということもあり、昔から個人的にお付き合いのある青年部会員も多いので、今回の企業視察もお願いしてみたところ快諾を頂くことができました。

ピーピーエル様の会社は何棟かの建物があり、製作物によって分かれています。最初に大型の制御盤の製作現場に御案内を頂きました。その現場には印刷機や工場設備など色々な業界の制御盤が立ち並び、社員の方が図面を見ながら集中して組立や確認作業をされていました。制御盤の中を見ると数えきれないほどの多くの電線が配線されていて、これを間違えずに正確に作業をすることは非常に大変だなと感じましたが、電気配線は一本も配線を間違えることが出来ないので、常にしっかりと確認をしながら作業を進めていっているとの説明を頂きました。そして次に案内頂いたのはハーネスやケーブルの製作現場でした。部屋には多くの種類の電装資材が常備されていて、その日はタイミングが合わずに見ることができませんでしたが、普段は多くのパート社員の方が図面を見ながら作業をされているとのことでした。そして最後に案内頂いたのはAVG(無人搬送車)の制御盤製作現場でした。こちらは発注ロットが非常に多いとのことで、現場が電装箱で一杯な状況でした。組立現場を一通りご案内頂いたのですが、色々な業界の電装品製作を手掛けられていることや、多くの部品点数が有るにも関わらず整理整頓がしっかりとされていることが印象的でした。また社員さん一人ひとりの有給消化や残業時間等の資料も掲示され、働き方改革に対する取り組みが参考になった青年部会員も多かったように思います。ピーピーエル古田社長様には大変お忙しい中を御案内頂きまして、本当にありがとうございました。



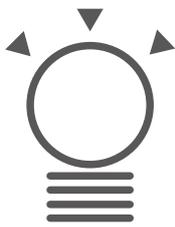
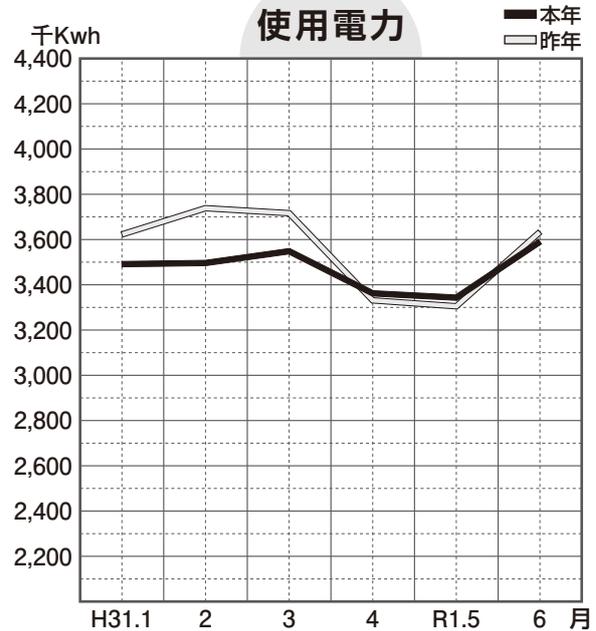
青年部情報交換会

上記の企業視察と同日夜に、岐阜市の田中家にて青年部情報交換会を行いました。情報交換会にはピーピーエル古田社長にも御参加を頂くことができましたので、本日の企業視察について、またその他の話題まで多岐に渡って話をすることができました。今回は体調不良や仕事の都合で参加できなかった会員もあり、全員参加とはなりませんでしたが、是非とも次回には全員で集まって青年部の結束を深めていきたいと思っております。



お知らせ

令和元年6月分電力使用状況



電気は正しく使いましょう!!

直撃雷と誘導雷の特徴

直撃雷は、対象そのものに落雷することを指し、電気機器であればほぼ間違いなく破損します。人体に落雷した場合、死亡率70%以上です。

直撃雷が発生した場合、電気機器を保護することは不可能です。

誘導雷は、付近周辺に落雷した場合、誘導作用により電圧が発生し、誘導電流が周囲に影響を及ぼす現象です。直撃雷より電圧、電流が低く遮蔽して被害を少なくすることができます。

直撃雷の特徴

- ・電気設備・人体、その他の物体に雷撃が直撃することを言います。
- ・電圧は、数百万V、電流は、1,000～20,000A程度。
- ・エネルギーが大きい場合は、200,000Aを超えるような放電電流が発生します。

誘導雷の特徴

- ・落雷が発生した場所の周囲の電線などに、二次的に過大な電圧や電流が発生します。
- ・誘導雷により離れた場所の電子機器などが故障する対策として、避雷針を用いるなどの方法があります。
- ・電化製品の対策としてコンセントやアンテナの同軸ケーブルを電気機器から外せば効果的です。

行事予定

2019 **7** July

16 火	
17 水	
18 木	
19 金	
20 土	『組合休日』
21 日	
22 月	月例会・役員会
23 火	第12期 第1回1号議員選人会議(各務原商工会議所) 経営者セミナー並びに懇親会(岐阜中金会)
24 水	
25 木	
26 金	
27 土	ナゴヤドーム観戦ツアー 『組合休日』
28 日	
29 月	
30 火	第1回一般工業部会役員会及び部会総会(各務原商工会議所) 第19回企業と教授の交流会 (産学金官連携人材育成・定着プロジェクト推進協議会)
31 水	

2019 **8** August

1 木	
2 金	
3 土	『組合休日』 組合研修センター清掃
4 日	
5 月	能力開発セミナー(国際たくみアカデミー ~6日)
6 火	第1回支部担当国会議(岐阜労働基準協会) 2019経営者夏季セミナー(商工中金経済研究所)
7 水	
8 木	
9 金	
10 土	『組合休日』
11 日	『山の日』
12 月	『振替休日』
13 火	『組合休日』
14 水	『組合休日』
15 木	『組合休日』

■ 8月～10月の行事予定

8月24日 団地G (第53期取り切り戦)
10月4日・5日 組合員親睦旅行(大阪)

8月26日 月例会・役員会
10月20日 金属団地内停電(9:00～17:00)

■ 6月度金属団地ゴルフ会

6月22日 各務原カントリー倶楽部
優勝 松原伸五(MTK) 2位 山村容弘(山村製作所) 3位 小栗國男(信栄ゴム工業)

<http://www.g-mecca.jp>

G-MECCA

GIFU METAL ENGINEERING COMMUNITY COOPERATIVE ASSOCIATION

